



平成29年9月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年4月28日

上場会社名 シミックホールディングス株式会社
コード番号 2309 URL <http://www.cmic-holdings.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 中村 和男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員CFO (氏名) 望月 渉

TEL 03-6779-8000

四半期報告書提出予定日 平成29年5月10日 配当支払開始予定日

平成29年6月15日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年9月期第2四半期の連結業績(平成28年10月1日～平成29年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月期第2四半期	31,743	3.2	1,902	7.3	1,888	0.6	533	35.6
28年9月期第2四半期	30,767	16.1	2,052	278.2	1,900	397.1	829	628.7

(注) 包括利益 29年9月期第2四半期 1,107百万円 (18.1%) 28年9月期第2四半期 937百万円 (285.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年9月期第2四半期	28.54	
28年9月期第2四半期	44.36	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年9月期第2四半期	63,723	22,298	34.2	1,164.80
28年9月期	59,104	21,397	35.5	1,122.55

(参考) 自己資本 29年9月期第2四半期 21,785百万円 28年9月期 20,995百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年9月期		5.00		11.00	16.00
29年9月期		5.00			
29年9月期(予想)				14.00	19.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年9月期の連結業績予想(平成28年10月1日～平成29年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	66,500	7.2	3,700	10.0	3,420	14.4	1,200	36.5	64.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年9月期2Q	18,923,569 株	28年9月期	18,923,569 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

29年9月期2Q	220,028 株	28年9月期	219,791 株
----------	-----------	--------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

29年9月期2Q	18,703,718 株	28年9月期2Q	18,699,045 株
----------	--------------	----------	--------------

(注)自己株式数については、株式給付信託(J-ESOP)が所有する当社株式(28年9月期 184,000株、29年9月期2Q 184,000株)を含めて記載しております。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnet及び当社ウェブサイトで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(会計方針の変更)	11
(会計上の見積りの変更)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報)	12
3. 補足情報	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

[当連結会計年度の概況]

当社グループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する当社グループ独自の事業モデルであるPVC (Pharmaceutical Value Creator) を展開しております。CRO (医薬品開発支援) 事業、CDMO (医薬品製剤開発・製造支援) 事業、CSO (医薬品営業支援) 事業、ヘルスケア事業において、製薬企業の開発、製造、営業・マーケティングのバリューチェーンを広範に支援しております。また、IPM (Innovative Pharma Model) 事業では、当社グループが保有する製造販売業等の許認可とバリューチェーンを組み合わせた新たなビジネスソリューションを製薬会社等に提供しております。

医薬品業界におきましては、ジェネリック医薬品の使用の加速化及び長期収載品の薬価引下げ等を通じた社会保障費抑制策の推進により、厳しい事業環境にあります。政府の総合戦略においても、新薬開発型医薬品企業には革新的な医薬品の創出、ジェネリック医薬品企業には安価で高品質な医薬品の安定供給が求められ、将来を見据えた国際競争力のある産業構造への転換が促されています。また、分子レベルの疾患メカニズム解明や診療技術の進展により個別化医療 (患者個々人に対応した治療) の動きが広がっており、医薬品業界でも癌や難病・希少疾患の分野は個別化医療の発展とともに成長分野として期待されています。一方、高額薬剤の適正使用について議論されるなど、製薬企業には医薬品開発費用のより一層の低減化が求められております。科学技術イノベーションの創出に向けた産官学の連携・協力により、新薬開発力強化への取組みが加速するとともに、海外企業による日本市場への参入も増加するなど、開発・製造・販売のスピードアップや効率化を目指したアウトソーシングニーズは、引き続き拡大するものと思われます。

当社グループが属する業界におきましては、このようなアウトソーシングニーズの高まりを受け、企業統合や異業種からの新規参入等の業界再編が進む中、市場規模は中期的に拡大傾向にあります。また、産官学連携を通じた迅速な新薬創出を促進する政策を受け、顧客層はこれまで以上に拡大していくものと見込まれております。

当社グループは、平成27年9月期より「Project Phoenix」 (赤字事業の解消及びコスト構造改革の推進を通じて業績V字回復及び持続的成長の実現を図るプロジェクト) に取り組んでおり、当連結会計年度において創業から25周年という節目を迎え、当社グループ各事業領域の基盤や個々のサービスの一層の強化、事業間シナジーの追求及び顧客との連携強化を図るとともに、PVC機能を活用したソリューションビジネスの実現を目指し、新たな取組みを推進しております。

[売上高及び営業利益]

当第2四半期連結累計期間においては、医療・医薬品産業の変革にスピーディに対応できるソリューションビジネスの推進と、効率経営実現のための組織再編及び人材教育の強化を進めております。当第2四半期連結累計期間の売上高は31,743百万円 (前年同期比3.2%増)、営業利益は当初計画を上回る1,902百万円 (前年同期比7.3%減) となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりです。なお、平成28年10月の組織体制の変更に伴い、シミックキャリア株式会社は、報告セグメントをCSO事業からCRO事業に、シミックホールディングス株式会社で行っているIPM事業の一部業務をCRO事業等に変更しております。セグメント別の業績の前年同期比増減額及び率につきましては、当該変更後の区分に基づいて比較しております。

また、第1四半期連結会計期間より、事業実態に合わせて、従来「CMO事業」としていた報告セグメントの名称を「CDMO (Contract Development and Manufacturing Organization) 事業」に、「IPD事業」としていた報告セグメントの名称を「IPM (Innovative Pharma Model) 事業」に変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

<CRO事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	15,782	16,508	+725 (+4.6)
営業利益又は営業損失 (△)	2,693	2,913	+219 (+8.2)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品開発支援に係る業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、臨床業務における堅調な引合いに応じた人材の確保に努めるとともに、多様化する顧客ニーズに対応するため、更なる専門性と品質向上を目指した人材育成を一層強化しております。平成28年10月に、シミック株式会社に再生医療分野の臨床試験及び臨床研究に特化した再生医療臨床開発部を設立し、迅速かつ安全な再生医療の普及に向けた支援体制の強化に取り組んでおります。

非臨床業務においては、シミックファーマサイエンス株式会社及びCMIC, Inc. において、分析化学サービス事業の新規案件獲得に向けた営業活動の強化を推進するとともに、日米の連携を強化し、新規案件の獲得及び米国進出企業の支援体制の構築などに取り組んでおります。また、新設した試験施設において再生医療等に関する試験を実施するなど、再生医療関連事業の拡充を進めております。

売上高及び営業利益につきましては、新規受注及び既存案件が堅調に進捗したこと等により前年同期を上回りました。

<CDMO事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	6,787	6,728	△59 (△0.9)
営業利益又は営業損失 (△)	144	△239	△383 (-)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品製剤開発・製造支援に係る業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、製剤化検討から治験薬製造、商用生産まで医薬品製造に係る総合的なサービス提供体制の確立を進めております。価格競争力のあるコスト構造への転換に取り組んだことによりジェネリック医薬品等の新規受託が増加するなど、ローコスト生産体制の構築が進展いたしました。また、足利工場において、平成30年末の稼働に向け新注射剤棟の建設を進めております。

売上高及び営業利益につきましては、顧客の在庫調整の影響等により一時的に生産量が減少したことから、売上高が前年同期を下回り、営業損失を計上しておりますが、下半期より新規受注及び既存案件の受託生産が回復することから、通期では期初計画通りとなる見通しです。

<CSO事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	3,739	3,452	△287 (△7.7)
営業利益又は営業損失 (△)	330	247	△82 (△25.1)

当事業においては、主に製薬企業の営業・マーケティング支援に係る業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、シミック・アッシュフィールド株式会社において、MR（医薬情報担当者）派遣業務の受注力強化及び既存案件の着実な進行に取り組んでおります。また、顧客ニーズに対応したマルチチャネルのサービス提供を進めることにより、市場シェアの拡大を図っております。

売上高及び営業利益につきましては、アウトソーシングニーズが一時的な調整局面にあることから、前年同期を下回りましたが、通期ではコスト削減を図り、期初計画通りの営業利益を確保する見通しです。

<ヘルスケア事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	3,450	4,023	+572 (+16.6)
営業利益又は営業損失 (△)	28	616	+587 (+2,071.8)

当事業においては、SMO（治験施設支援機関）業務、ヘルスケア情報サービスなど、主に医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進のための支援業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、サイトサポート・インスティテュート株式会社において、SMO業務における営業活動の一層の強化、医療機関ネットワーク拡大への取組みを通じた新規案件の獲得を推進しております。

売上高につきましては、SMO業務の新規案件及び既存案件が堅調に進捗したこと等により前年同期を大幅に上回りました。営業利益につきましても、プロジェクト管理の徹底とコスト削減策の実施を図るなど、経営効率化策を継続したこと等により、前年同期を大幅に上回りました。

<IPM事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	1,263	1,154	△109 (△8.7)
営業利益又は営業損失 (△)	△16	△75	△59 (-)

当事業は、当社グループが保有する製造販売業等の許認可とバリューチェーンを組み合わせた新たなビジネスソリューションを製薬会社等への提供する事業であります。現段階では、オーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）や診断薬等の開発及び販売に係る業務を行っております。

オーファンドラッグ等事業においては、株式会社オーファンパシフィックが、自社開発品を含むオーファンドラッグ等5製品を販売しております。また、MSD株式会社と、高インスリン血性低血糖症治療薬の販売移管に関する契約を締結するなど、IPM事業の基盤強化に取り組んでおります。診断薬事業においては、当社グループが腎疾患の診断を目的として開発した体外診断用医薬品「ヒトL型脂肪酸結合蛋白キット」の簡易検査（Dip-test）キットの販売を平成28年10月に開始し、販路拡大及びプロモーションの強化に努めております。

売上高及び営業利益につきましては、診断薬業務に関する日本医療研究開発機構（AMED）からの委託研究の減少等により前年同期を下回りましたが、新しいソリューション提供による事業規模拡大に向けて、活発に事業開発活動を行っております。

[経常利益]

当第2四半期連結累計期間の経常利益は1,888百万円（前年同期比0.6%減）となりました。

なお、営業外収益として為替差益及び受取利息等158百万円、営業外費用として支払利息及び持分法による投資損失等171百万円を計上しております。

[親会社株主に帰属する四半期純利益]

当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は533百万円（前年同期比35.6%減）となりました。

なお、特別損失として貸倒引当金繰入額等366百万円、法人税等合計として900百万円及び非支配株主に帰属する四半期純利益として88百万円をそれぞれ計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末比で4,618百万円増加し、63,723百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金、有形固定資産並びに投資有価証券の増加等であります。

負債合計は、前連結会計年度末比で3,717百万円増加し、41,424百万円となりました。これは主に、長期借入金の増加等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末比で901百万円増加し、22,298百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年11月7日に公表いたしました平成28年9月期決算短信の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,069	5,747
受取手形及び売掛金	10,731	11,802
商品及び製品	486	662
仕掛品	3,368	3,025
原材料及び貯蔵品	1,430	1,536
その他	3,723	3,737
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	24,799	26,500
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,911	10,119
土地	6,298	6,177
その他（純額）	8,845	11,018
有形固定資産合計	25,055	27,315
無形固定資産		
のれん	1,093	915
その他	1,274	1,175
無形固定資産合計	2,367	2,091
投資その他の資産		
投資有価証券	1,376	2,683
敷金及び保証金	1,630	1,703
その他	4,145	4,021
貸倒引当金	△268	△592
投資その他の資産合計	6,883	7,816
固定資産合計	34,305	37,222
資産合計	59,104	63,723

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	953	1,350
1年内償還予定の社債	50	-
短期借入金	2,250	1,800
1年内返済予定の長期借入金	2,783	2,212
コマーシャル・ペーパー	2,000	2,000
未払法人税等	1,007	588
賞与引当金	2,054	1,808
役員賞与引当金	49	-
受注損失引当金	402	421
その他	8,310	8,736
流動負債合計	19,861	18,917
固定負債		
長期借入金	9,002	13,739
退職給付に係る負債	6,325	6,655
その他	2,517	2,112
固定負債合計	17,846	22,507
負債合計	37,707	41,424
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,087	3,087
資本剰余金	7,715	7,715
利益剰余金	10,596	10,925
自己株式	△265	△265
株主資本合計	21,134	21,462
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	414	582
為替換算調整勘定	△143	△0
退職給付に係る調整累計額	△409	△258
その他の包括利益累計額合計	△138	323
非支配株主持分	401	512
純資産合計	21,397	22,298
負債純資産合計	59,104	63,723

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)
売上高	30,767	31,743
売上原価	23,895	24,816
売上総利益	6,872	6,927
販売費及び一般管理費	4,820	5,025
営業利益	2,052	1,902
営業外収益		
受取利息	13	21
為替差益	-	104
受取補償金	21	-
その他	43	32
営業外収益合計	79	158
営業外費用		
支払利息	74	70
持分法による投資損失	48	66
為替差損	76	-
その他	32	34
営業外費用合計	230	171
経常利益	1,900	1,888
特別損失		
固定資産売却損	1	21
固定資産除却損	20	23
減損損失	11	-
貸倒引当金繰入額	-	321
特別損失合計	33	366
税金等調整前四半期純利益	1,867	1,522
法人税、住民税及び事業税	972	925
法人税等調整額	△59	△24
法人税等合計	912	900
四半期純利益	954	621
非支配株主に帰属する四半期純利益	124	88
親会社株主に帰属する四半期純利益	829	533

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)
四半期純利益	954	621
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	167
為替換算調整勘定	△105	157
退職給付に係る調整額	62	159
その他の包括利益合計	△17	485
四半期包括利益	937	1,107
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	823	995
非支配株主に係る四半期包括利益	113	111

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,867	1,522
減価償却費	1,266	1,403
のれん償却額	328	177
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	424	558
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△65	△246
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	△49
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	321
受取利息及び受取配当金	△13	△21
支払利息	74	70
為替差損益 (△は益)	18	△150
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,192	△997
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△359	86
仕入債務の増減額 (△は減少)	△232	376
未払費用の増減額 (△は減少)	△66	△111
前受金の増減額 (△は減少)	278	514
その他	16	△795
小計	2,344	2,659
利息及び配当金の受取額	16	34
利息の支払額	△78	△92
助成金の受取額	-	1
法人税等の支払額	△293	△1,345
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,988	1,257
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△109	△50
定期預金の払戻による収入	121	113
有形固定資産の取得による支出	△1,875	△2,977
有形固定資産の売却による収入	4	156
無形固定資産の取得による支出	△92	△100
敷金及び保証金の差入による支出	△17	△93
敷金及び保証金の回収による収入	71	24
投資有価証券の取得による支出	△0	△1,068
短期貸付金の純増減額 (△は増加)	188	70
長期貸付けによる支出	△359	-
その他	△4	△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,072	△3,932
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	100	△450
長期借入れによる収入	3,000	6,000
長期借入金の返済による支出	△1,435	△1,834
社債の償還による支出	△50	△50
リース債務の返済による支出	△117	△105
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△95	△207
非支配株主からの払込みによる収入	4	-
その他	△7	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,397	3,352
現金及び現金同等物に係る換算差額	△41	103
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,273	780
現金及び現金同等物の期首残高	5,638	4,946
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	1
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,911	5,728

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	CDMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPM事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	15,709	6,769	3,649	3,419	1,219	30,767	-	30,767
セグメント間の内部 売上高又は振替高	73	18	89	30	44	256	△256	-
計	15,782	6,787	3,739	3,450	1,263	31,024	△256	30,767
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,693	144	330	28	△16	3,180	△1,128	2,052

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,128百万円は、各報告セグメントへ配分していない全社費用であります。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	CDMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPM事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	16,457	6,679	3,452	4,001	1,153	31,743	-	31,743
セグメント間の内部 売上高又は振替高	51	49	-	22	1	124	△124	-
計	16,508	6,728	3,452	4,023	1,154	31,867	△124	31,743
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,913	△239	247	616	△75	3,462	△1,560	1,902

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,560百万円には、セグメント間取引消去等△2百万円、各報告セグメントへ配分していない全社費用△1,558百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、平成28年10月の組織体制の変更に伴い、シミックキャリア株式会社はCSO事業からCRO事業に、シミックホールディングス株式会社はIPM事業の一部業務をCRO事業等に報告セグメントをそれぞれ変更しております。また、報告セグメントの名称をCMO事業からCDMO(Contract Development and Manufacturing Organization)事業に、IPD事業からIPM(Innovative Pharma Model)事業にそれぞれ変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織体制変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 補足情報

受注の状況

受注実績

(単位：百万円)

報告セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年10月 1日 至 平成28年 3月31日)		当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年10月 1日 至 平成29年 3月31日)		前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
CRO事業	14,608	41,902	24,938	54,067	34,174	45,586
CDMO事業	7,645	4,116	7,389	3,999	14,179	3,289
CSO事業	2,288	5,641	2,097	4,239	5,824	5,594
ヘルスケア事業	3,705	9,194	3,107	8,596	7,415	9,490
合計	28,248	60,855	37,532	70,903	61,593	63,961

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

3. CDMO事業の受注残高は確定注文を受けているもののみを計上しております。顧客から提示を受けている年間ベースでの発注計画等は、確定注文とは異なりますので受注残高には含めておりません。

4. 前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度における受注高及び受注残高は、組織体制変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

5. IPM事業は受託事業と業態が異なるため、受注の状況を記載しておりません。